

第 18 回 みらい 未来からの りゅうがくせい 留学生

報告書

香川大学教育学部

第 18 回未来からの留学生を終えて

実行委員長 上野耕平

この度、第 18 回未来からの留学生を令和元年 10 月 13 日（日）に実施致しました。台風の接近により当初は開催が危ぶまれましたが、当日は晴天のもと多くの児童・生徒及びそのご家族にご来場頂きました。本年の未来からの留学生では、国語や社会などの各領域の他、学内サークルが企画した 26 に及ぶ講座を開講しておりました。26 講座は前もって申し込みが必要な事前申込型講座（13 講座）と、当日参加が可能な自由参加型講座（13 講座）に分かれて例年開講されています。本年も保護者にパンフレットの開講時間を確認しつつ様々な講座に自ら進んで参加する児童の姿が、学内のあちこちで見られました。

「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、本学部と地域を繋ぐ活動として大きな役目を担う一方、活動の企画や運営を通じて学生自身が子どもとの接し方を学ぶ貴重な機会でもあります。各領域からの報告には、「どのようにしたら子ども達に分かりやすく伝えられるのかを考え、実際にうまく伝わった時はとても嬉しかった」、「さかさワールドを通じて、子どもの目線に立つことの大切さを学んだ」など、教えることの喜びと共に子どもを理解する機会となったことを示す感想が認められました。楽しく参加する児童や保護者の皆様のお姿、そしてこうした学生の感想からは、本年度の未来からの留学生も、ひとまずその活動目的を果たし得たのではないかと思います。

最後に、本年度の活動は香川県教育委員会のご後援を受けて実施され、教育学部の事務職員、各領域担当の教員ほか、多数の皆様によるご協力のもと実施されました。本年度の活動の実施にご尽力頂きましたことに深く感謝しますと共に、来年度以降の活動につきましてもどうかご支援頂けますようお願い致します。





■ 未来からの留学生について

香川大学教育学部では、未来の「アーティスト」や、「科学者」を夢見る、すてきな大人になるであろう皆さんに、いろいろな体験を通じて、大学の良さを知ってもらうために一日体験入学を企画しました。大学生のお兄さん、お姉さんたちと一緒に、楽しい時間を過ごしてみませんか？大勢の皆さんが参加されることを期待してお待ちしています。

■ 講座紹介

講座には、1)事前申込みしなくても、だれでも参加できる「自由参加型講座」と、2)ホームページから申込み「事前申込型講座」の2つのタイプがあります。

高校生向けの入試相談会（1～3時間目、随時受付）も同時開催しています。

1) 自由参加型講座一覧

受付開始 9:00 1時間目 9:30～10:15 2時間目 10:35～11:20
 昼 休 み 11:20～13:00 3時間目 13:00～13:45 4時間目 14:05～14:50



※いつでも自由に参加できます！

講座 番号	1	2	3	4	講座名	内 容	担当・注意事項 (アンダーラインは学生・大学院生)
A					ふしぎ発見！ サイエンスワールド	水が手でつかめる！？歯磨き粉で船が動く！？身近なもので面白い実験をしよう！	松本一彰、伊藤克夫、小野智志、理科領域学生・大学院生
B					夢化学21 in Kagawa	磁石につく不思議な液体やフニャフニャボールすくいをしてあそぼう。化学の日常バッチや元素記号カルタなどの展示もあるよ。	9:30-10:15開催。高木由美子、久保孝介、杉川智哉 日本化学会中国四国支部同種行事
C					マジック、ジャグリング、 バルーンアート体験	おもしろいマジックを生で見たり、ジャグリングを体験したり、かわいいバルーンをもらえます！みんなでおもしろい世界を楽しもう！！	榎田和也、小笠原理、メルシー笑クラブ
D					エンジョイ！スポーツ教室	トランボリンやキック・ザ・ターゲットなど日頃できないスポーツがいっぱい！運動が苦手な子どももどんどん参加しちゃおう！！	米村幹平、山田隆太、保健体育領域学生、体育館シューズをご持参ください。
E					紙コップで造形アート	1200個の紙コップを使って、みんなで一緒に遊ぼう！紙コップをならべたり、つんだりしていろんなカタチをつくって楽しもう！	吉川暢子、早川竜生、松岡美紅、三井千博

※時間が決まっているからチェックしてね！

講座 番号	1	2	3	4	講座名	内 容	担当・注意事項 (アンダーラインは学生・大学院生)
F					いざ行かん！ 百人一首の世界へ	百人一首の世界へようこそ！映画「ちはやふる」で有名な百人一首の世界へようこそ！一緒に楽しませんか？	古橋紀実、赤澤朋美、国語領域学生
G					ふわふわ シャボン玉ワールド！	みんなだいすきシャボン玉！大きいシャボン玉、はいるシャボン玉、かわれるシャボン玉があるよ！みんなも一緒にシャボン玉で遊ぼう！	吉川暢子、轟悠希、幼児教育コース学生、水たまりをつくり出す可能性があるため、服装や足元には気を付けてください。
H	10:00-11:30 13:00-14:30				ブロックで遊ぼう！	生き物・植物・乗り物・食べ物などをブロックで作ってみよう！！小さいお友達から大人まで、2つのコーナーで楽しく遊べるよ。大学生のお兄さん、お姉さんと一緒に作っても楽しいね。	久米康夫、全志石金穂子、大野文恵、大野実菜、河野翔羽、河原実由、佐伯全亮、11:30-13:00は休憩です。
I	10:00-13:00 13:45-15:00				模型で見る四国の鉄道	1/80の鉄道模型を展示走行します。	黒田 勉 13:00～13:45は休憩です。
J	随 時 受 付				太陽風点を観察しよう	今日の太陽に、黒点は出ているでしょうか？屋上の望遠鏡で観察してみましょう。	松村雅文、理科領域学生 空気の汚染のみの保護になります。 曇天や雨天の場合は、中止します。
K	随 時 受 付				モーツァルトの音楽会	秘密をこっそり教えよう。モーツァルトってどんな人？コンサートがはじまるよー！！	青山夕夏、亀井美流、音楽領域学生 お弁当も持ち込み可。
L					アニマルワールド ～見よう！つくろう！楽しもう！～	たくさんの動物が出てくる楽しい世界へようこそ！ワクワクドキドキがいっぱい、どんな動物に出会えるかな？	吉川暢子、山崎花、幼児教育コース学生
M					体験★さかさワールド	逆転めがねをかけて、不思議な世界“さかさワールド”を体験してみよう！上と下がさかさにみえるよ。モグラたたきにも挑戦してみよう！	大久保智生、弓削結貴、山本涼香、北岡優衣、藤井悠太、心理領域学生



2) 事前申込型講座一覧

受付開始 9:00 1開演日 9:30~10:15 2開演日 10:35~11:20
 休 休 日 11:20~13:00 3開演日 13:00~13:45 4開演日 14:05~14:50



※事前に申し込んだ人だけが参加できるよ。時間に遅れないように来てね！

講座 番号	1	2	3	4	講座名	内 容	対 象・担 当・注 意 事 項 (アンダーラインは学生・大学院生)
1					めざせボール運動の達人!!	手を使って仲間でボールをパスしながら、相手のゴールにシュートします。運動が苦手な人でもコツさえ分かればどんなシュートが決まります。さて、そのコツとは一体何でしょうか？みんなで探していきましょう！	小1~6、24名。上野祥平、長本智哉、体育委員の学生、準備シューズ、水筒、タオルを持参してください。チーム運動なので遅刻しないように来てね！
2					氷でアート	色水を凍らした水で、お絵かきしてみよう。	幼・小1~6、各20名。山下直子、佐藤真由子、入屋碧、太志優愛、生活総合領域学生。汚れてもいい服装で、お絵かきください。
3-1					和紙で手作りランプをつくろう!!	和紙を使って、世界で一つだけのランプをつくろう！筒状のランプスタンドで部屋を明るくともそう。君はどんなランプをつくるかな？	小1~6、各20名。吉野敬史、赤松知里、岡田希星、河田直之介、藤田莉奈、美術領域学生・大学院生。汚れてもいい服装で来ててください。
3-2							
4-1					ものしり理科ハカセになろう！	光の秘密について知ろう！目に見えない空気の謎に迫ろう！	小1~6、各24名。松本一輝、伊藤英志、小野智志、理科領域学生・大学院生
4-2							
5-1					おもしろ算数・数学教室	はさみとのりを用いて、広さを変えないで図形を变身させます。算数が好きな人もきらいな人も、みんなで一緒に算数を楽しみましょう。	小学校中学年以上、各30名。低学年のみなさんは、保護者の方や兄さんお姉さんと一緒に参加してください。のり、はさみ、ものさし、エンピツを持ってきてください。
5-2							
6-1					図形の不思議さ	展開図を使って辺をテープで貼り、正四面体、正十二面体など5種類の正多面体を作ります。そして、それぞれの頂点、辺、面の個数を数えて表に記入し、その秘密を明らかにします。	幼児、小学生（親子参加可）、各10名。内藤浩忠、四ツ谷直仁、数学領域学生。筆記用具、消しゴム、セロテープを持参。
6-2							
7					Let's enjoy English! 英語劇を楽しもう	おなじみのシンデレラの劇を、大学生のお兄さん・お姉さんたちが英語でしますよ。英語の歌を歌ったり、一緒に劇に参加したりして、英語を楽しもう！	小1~6、25名。ポール・パテン、鎌田幸輔、廣畑早悠、英語領域学生
8					大豆博士になろう！	大豆からは何ができる？豆乳と豆腐を作って学んで。君も大豆博士になろう！	小1~6、12名。東五月、豊田悠希、美術領域学生。大豆アレルギーの方はご注意ください。保護者は調理室に入れません。着替：エプロン、準備シューズ、筆記用具。
9-1					ワクワクけんぼう入門！	3歳児から大人まで「憲法がどのように私たちを守っているの？」という疑問に自分の言葉で答えることができるようになる講座です。みんなで一緒に学んでみよう！	年齢制限はありません。担当教員は高倉良一、担当学生は社会科学教育講座です。
9-2							
9-3							
10-1					おんどくリンピック2020	みんなで目指そう金メダル！音読が得意な人も苦手な人も今日から音読が面白くなるはず！さあ、楽しい音読の世界へ！！	幼・小1~6、各20名。当日参加者もOK！大塚英樹、川原直美、山口美生、学級学生も志、質問書など音読したい理由と課題、お問を持参してください。
10-2							
11-1					おはなしの国2019	おはなしの国へようこそ！歌にダンスにゲームに楽しもう！	幼児~小学校低学年20名+保護者。櫻井佳樹、武一郎、教育領域学生
11-2							
12-1					折り紙マンとゆかいな紙々	折り紙マンと一緒に、折り紙を使って切っているな形をつくろう。	小学生（親子参加可）、各10名。高野智児、数学領域学生。はさみ持参。
12-2							
13					バルーンワールドへようこそ	風船を使って好きな動物やお花を作ってみよう。曲げたりねじったりして自分の好きな形を作ろう。バルーンの世界で楽しもう。	小1~6、20名。小方朋子、近藤英志、特別支援教育領域学生。

※各講座は開演する時間前が決められています。申込みの際はご注意ください。
 ※当日午前7:00に開演が発表されている場合は中止します。詳しくは西川大学教育学部のホームページをご覧ください。
 ※この案内のみならず当日の様子を撮影し、それらの写真または動画を事業報告資料や本学広報誌がスター・ホームページ・パンフレット等に活用させていただきます。ご了承ください。

未来からの留学生 報告書

講座名 ふしぎ発見！サイエンスワールド・自由参加型

担当：松本 一範、理科領域学生

今年の未来からの留学生の自由参加型講座で、理科領域は、「つかめる水をつくろう」と「はみがき粉船をつくろう」という二つのブースを作り、実験を行いました。どちらも家庭にあるものや容易に手に入るものを用いて簡単にできる実験で不思議な現象を体験してもらいました。

【つかめる水をつくろう】

このブースでは子供に紫キャベツから抽出した水とアルギン酸ナトリウムを混ぜ、塩化カルシウム水に垂らし、つかめる水を作ってもらいました。さらにクエン酸や重曹につけ、色の変化も観察してもらいました。この実験では、なぜつかめる水ができるのかの仕組みを学んでもらうよりは、身近なものを用いることでもこんな不思議なことが起こるということを伝え、体験してもらおうということがメインの目的でした。子供たちに楽しんでもらうための工夫としては、つかめる水を作ってもらった後、酸性・アルカリ性といった水溶液の性質によって色の変化が起こるということを観察してもらおうようにしました。



【はみがき粉船をつくろう】

このブースでは、はみがき粉に含まれる界面活性剤の働きにより水の表面張力が弱くなる性質があるということを学んでもらうことが目的でした。実験内容は、船の後ろに歯磨き粉をつけることによって水の表面張力の差で船が前に進んでいくところを観察してもらいました。子供たちに楽しんでもらうための工夫としては、歯磨き粉船を作ってもらったときに船に取り付ける旗や船本体などに自由に絵をかいてもらい、自分だけのオリジナル船を作ってもらおうようにしました。



【総評】

今回の未来からの留学生を通じて、どちらの実験でも子どもたちに持ち帰ってもらえるようにしたことで喜んでくれた点はよかったですと思います。今回の実験は理科の授業を行う上でも教材として扱い、教育実習につなげることができるのではないかと思います。

(文責 小野 智志)

夢化学 21 in Kagawa は、2007 年から毎年実施しています。今年も昨年につき、1号館2階にある物理学実験室で行いました。本活動は日本化学会の協力も得ています。



今年も、昨年に引き続き、ぷにぷにボールすくいと磁性イオン液体の展示をしました。ぷにぷにボールを作るためにアルギン酸ナトリウムを今年は30L準備し、例年通り着色にはチョコレートカラーを用いました。非常に多くの方に参加していただきました。

ぷにぷにボールを実際に作っている様子を楽しみ見せることができるように、たこ焼き器を使い、たこ焼き器のなかで丸く、カラフルなぷにぷにボールができていく様子に参加していた子供たちだけでなく、保護者の方々にもとても興味を持っていただくことができました。家庭で大きいものを作るには何を使えばいいか、どのような材料でできているのかなど、質問も非常に多くしていただきました。

また、夏祭りをイメージして、金魚すくいのポイでぷにぷにボールをすくってもらい、その中から自分の好きな色を2つまで持って帰れるようにしたことも、子ども達の興味を引いた理由だと思います。

ブースに設置していたアンケートを見てみると、活動の内容がとても面白かったという回答と、説明が分かりやすかったという回答を非常に多くいただいたことから、来ていただいた多くの方に満足していただけたのではないかと思います。

磁性イオン液体の方では、作成した磁性イオン液体の横にネオジム磁石を合わせて展示し、実際に磁石によって引き寄せられている様子を体験していただくことができたと思います。



今回の夢化学 21 in Kagawa を通して、子どもたちが面白い、不思議と感じ、記憶に残るような体験になっていたらうれしいです。今は原理を分からなくても、中学生や高校生になった時に、「あの時触ったぷにぷにボールはどうやってできているだろう。」と思い出してもらえる体験をできる活動を今後も行っていきたいです。このことを通して今後も地域貢献していきたいと考えています。(文責：久保孝介)

「マジック・バルーンアート・ジャグリング体験」

担当:石川 巧真 メルシー笑クラブ

担当教員 植田 和也

1.未来からの留学生の活動内容

今回メルシー笑クラブは、マジック・バルーンアート・ジャグリング体験講座を行ないました。例年通り、教室でマジック、バルーンアートを 415 前の外スペースでジャグリング体験を行ないました。子供と保護者だけでなく、多くの高校生にも訪れていただいて、非常に明るい交流会となりました。以下に具体的な詳細を書きます。

(1) マジック体験

このブースは昨年のマジック教室とは違い、簡単なマジックを子供に見せるのではなく、メルシー笑クラブマジック部門の担当がマジックを間近で披露して、普段見ることのないマジックを見せて、特別な経験をさせました。多くの子供と保護者の方に楽しんでいただきました。

(2) バルーンアート配布

このブースは昨年行わなかったのですが、バルーンアートを子供と一緒に作ったり、子供の目の前で、風船がブードルや剣などの作品になる過程を間近で見ることのできるブースとなっていました。子供の笑顔がたくさん見られて良かったです。

(3) ジャグリング体験

今年も天候に恵まれて、外の広いスペースでジャグリング体験を行えました。ジャグリング体験では、実際に私たちの使う様々なジャグリング道具を貸し出し、普段見ることのないジャグリング道具に、子供だけではなく、大人も一緒になって練習しました。今回はケガやトラブルが発生しないように注意して監督作業を行っていたので、特にトラブルなくブースが行えました。



↑ ジャグリング体験



↑ バルーンアート配布



↑ マジック体験

「エンジョイ！スポーツ教室」

担当 米村耕平 保健体育科学生 一年生ボランティア

保健体育科研究室では、米村先生監修のもと、「家庭や学校ではできないようなスポーツを子どもたちに経験してほしい」と考え、準備は保健体育科の学生を中心に、当日の運営は一年生のボランティアにも協力してもらってスポーツ教室を行った。一日を通して、多くの子ども・保護者が会場を訪れ、真剣かつ楽しみながら様々なスポーツに取り組む様子が見られた。保護者やボランティアの方々の協力もあり、大きなけがやトラブルなどは起こらず、無事に講座を終えることができた。

当日の様子



風船遊び



トランポリン



ターゲットフリスビー



キックターゲット

感想

会場の設営や当日の運営については、決して楽なものではなかったが、子どもたちが笑顔でスポーツに取り組む様子が会場の至る所で見られ、大変やりがいを感じることができた。また、声かけの仕方や安全面に配慮することなど、教育実習での学びを思い出しながら子どもと関わることができたので、我々教育学部の学生としても貴重な経験となったと感じている。私個人の話になるが、当日にある親子に話しかけられた。子どもがサッカーを習い始めたので、キックの仕方を教えて欲しいとのことだった。偶然にも順番を待つ他の子どもがいなかったため、短い時間ではあったが、簡単にけり方を教えさせていただいた。技術が劇的に改善されたわけではなかったが、親子は笑顔で去っていった。このような経験は、普段の学校生活では決して起こらないことだろう。未来からの留学生というイベントは、子どもに対してはもちろん、運営する学生にも、価値があると思うので、これからも末永く続いてほしい。

紙コップで造形アート



今年で2年目となる「紙コップで造形アート」は、「12000個の紙コップを使って、みんなで一緒にあそぼう！紙コップをならべたり、つんだりしているんなカタチをつくって楽しもう」という内容で行われました。

本年度は、子ども139名、保護者125名で昨年度の倍近くの方に来場して頂きました。

12000個の紙コップを使って、つんだり、ならべたり、つなげたりと子どもたちは夢中になって遊んでいました。そこでは、友だちや学生、保護者の方と一緒に協力しながら高く積みあげたりしていました。紙コップ一つでいろいろな遊びが見られ、子どもたちの自由な発想や想像力を見ることが出来ました。

担当：吉川 暢子

担当学生の感想

今回、初めて未来からの留学生というイベントに参加しました。他の講座とは違い、先輩がいなかったため状況がよくわからないままの本番でしたが、自分なりに頑張ったと思います。

子どもたちへどう声掛けをしたらよいのか、どう接したら良いのが難しかったです。特に一人遊びをしている子どもたちにどう対応したら良いのか、みんなで相談したり話し合ったりしました。

最初はほとんど口を開かなかった子どもたちも、後半になり慣れてくると沢山お話してくれて、スキンシップもみられて本当に良かったです。

中には、「また戻ってくるね！」「来年もやりたい！」などと言ってくれた子どももいて、とても嬉しい気持ちになりました。

また、親御さんも一緒に楽しんでくれていて、子どもたちと一緒に真剣に紙コップを積み上げる様子も見られました。たいへん充実した時間を過ごすことができたと思います。

当初はとても不安でしたが、皆でひとつのものをつくり上げる楽しさや、子どもたちと関わる面白さなど、様々なことが学べました。この貴重な体験を活かしてこれからも頑張りたいと思います。

また、来年もぜひこの企画を続けていってほしいと思いました。

1年 三井 千怜

いざ行かん！百人一首の世界へ

担当：古橋紀宏・国語領域学生

1. 活動内容

本講座は、子供たちが百人一首に触れ、少しでも興味を持ってもらったり、もっと百人一首を好きになってもらったりすることを目的として開催した。スタッフは主に教員1名(古橋)、学生17名(2年生)が担当し！開講時間は1時間目(9時30分～10時15分)であった。当日は会場を「競技かるた」、「五色かるた」、「坊主めぐり」、「散らし取り」の4つのブースに分かれてそれぞれのブースで子どもたちとともにかるた遊びを行なった。

2. 会場準備(10月12日 午前9時)

教室内の机と椅子を重ねて端に寄せ、床にビニールシートと莫蔭を敷き、4つのブースに分け、それを取り囲むように保護者用の椅子を配置した。入り口付近にはかるたの札をディスプレイしたり、黒板には講座名とイラストを描いたりして装飾した。

3. 当日の様子(10月13日 午前8時半集合 午前11時解散)

スタッフは開講時間の1時間前に集合し、各ブースに分かれてルールなどの確認をしたり、全体的な流れを確認したりした。講座の冒頭15分の時間を用いて百人一首についての説明や各ブースのあそびの大まかな説明を行なった。説明終了後は各ブースにスタッフが分かれ、子供たちには興味のあるブースに自由に移動してもらった。

4. 講座を終えての感想

30名という予想していたよりも大勢の子どもたちが参加してくれた。五色かるたや散らし取りはまだ百人一首をあまり知らない子どもでも簡単にできる遊びだったため参加者が多かった。参加者の中には「かるたを始めようと思うけど何から始めていいのかわからないから来た」という保護者もいて、そのような人の相談に乗れたり、子どもの好奇心や興味を大切にできたりしたらいいなと思った。各ブースで「やった！」や「1番好きな札が取れた！」などと子どもたちがそれぞれに楽しんでいる姿をたくさん見ることができてうれしかった。

しかし、子どもたち間のレベルの違いなどで起こるトラブルもあったため、今後は子どもたち一人一人の能力も考慮し、それに合った取り組みができればなお良いと思う。

(国語国文学研究室 2年 赤澤 朋美)





ふわふわシャボン玉ワールド！

担当教員 吉川暢子・幼児教育コース学生

毎年恒例のシャボン玉の講座。今年は前日の雨や台風などがあり不安でしたが、当日はシャボン玉日和の晴天で、たくさんのお子どもたちが来てくれました。

〈学生からのコメント〉

今までの不安をすっかり晴らすような、秋色の空の下、目を輝かせやってくる未来からの留学生たちは、幼児教育コースの学生と一緒に、全身を泡だらけにしなが、シャボン玉遊びに夢中になっているようでした。今年も、普通のシャボン玉、触れるシャボン玉、大きい入れるシャボン玉の3つのブースを用意しましたが、どのブースからも、楽しそうな声が絶え間なく聞こえていました。また、道具に捉われず、自分の手でシャボン玉を作る子どももいて、子どもの自由で発想豊かな行動に、学生も新鮮な気持ちで関わっていました。子どもたちが、まだまだ遊び足りないと言わんばかりの表情を浮かべながら、帰っていく様子を見て、子どもも学生も、お互いに充実した時間を過ごすことができたのではないかと思います。

昨年の反省を生かし、子どもたちが楽しく遊ぶことのできる環境を保障するために、滑りやすい地面の対処法などについて、学生や先生方と考えを巡らせました。今回実践したことや、それからうまれた反省もあります。このイベントのブース運営を進めていくにあたり、学生自身が学ぶことも多くあると感じました。

来年も、今年の実践を生かし、よりたくさんのお子どもたちの素敵な顔が見られることを目標に、幼児教育コース全体で取り組んでいきたいと考えています。

幼児教育コース3年

小松 緋里・高谷 咲衣・多胡 千比呂



「ブロックで遊ぼう！」

担当学生：出石奈緒子、大熊宏聖、大野茉菜、河野凧咲、河原茉由、佐竹令宝

本講座は、ブロックを使用して楽しみながら作品づくりをすることを目標として武道場で開講した。立地が建物の奥だったので人通りも少なかったが、開講時間になると、参加者が訪れ始めた。多くの子どもたちや保護者の方々が参加してくださり大いに賑わった。



準備では、子どもたちが楽しめるようにと色とりどりの輪飾りや花飾り、案内用の張り紙を工夫した。また、戸惑う子どものヒントになるように、大学生で事前にブロックで遊んでみて、いくつか作品を作ったり、子どもへの接し方の姿勢や安全面について話したりした。

本年度も前年に引き続き、細かなパーツのあるレゴブロックとそれよりも大きい「はじめてブロック」を取り扱った。「はじめてブロック」の対象は小学生以下で、レゴブロックは小学生以上であったが、当日は年齢に関係なく子ども自身遊びたいレゴブロックで遊んでいた。遊び方も様々であり、動物や乗り物を真似たり、どこまで高く作れるかブロックを積んでみたり、細かいパーツのレゴブロックになると場面を設定して作るものがあった。前年の教訓から、ブロックの作品例を写真で展示したり、大学生の補助もあったりして、子どもたちは思い思いに作品を楽しみながら作ることができていた。



大学生も子供の目線に立って一人一人に合わせて声掛けや支援を行うことができた。子どもへの関わり方だけでなく保護者にも丁寧で柔軟に対応しており、大学三年生の様子を見ながら一年生も十分に活躍してくれていた。

今回の講座を通して、自分たちで計画準備実行することや、子どもや保護者の目線からこの活動について考えること、実際に子どもに触れ合い支援することなど大変貴重な経験をすることができたといえる。この経験がこれからの子どもとの関わりに生かされ、より成長できることを願う。

(文責：教育領域3年 河野凧咲)

講座名：模型で見る四国・香川の鉄道

担当教員：黒田 勉

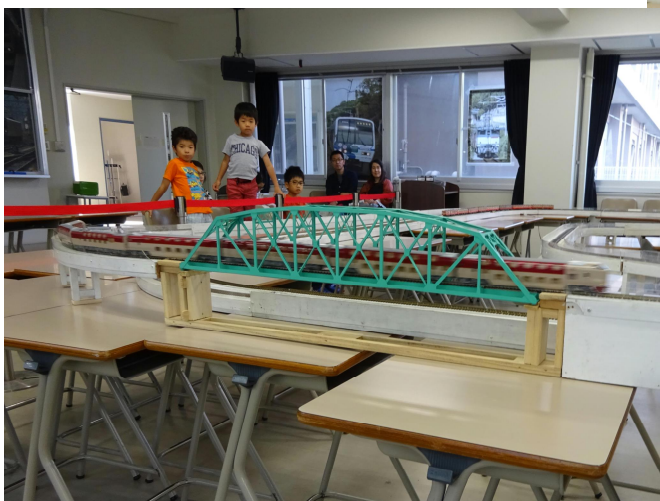
協力学生：教育学部学校教員養成課程，技術教育3年生

本年度も昨年度に引き続き，8号館 811講義室で行った。



8号館の入口にもポスターを掲示し，アピールを図っている。

例年通り，本学部OBで，このレイアウトの作者（の一人）が来られて，レイアウトの補修，展示運転等のお手伝いをして頂いた。車載カメラからの画像をプロジェクタでスクリーンに投影している。



自由参加型の展示ということで特に休憩時間には，ひっきりなしに参加者が訪れるということになった。サンライズ瀬戸をほぼ常時運転したところ，大変好評であった。

太陽黒点を観察しよう

担当：松村雅文・大崎 瞳・小郷純平

例年と同様に、研究交流棟屋上の天体ドーム（写真右）において、昼休みの時間帯（11時20分～13時）、太陽観察を行う自由参加型の講座を行った。スタッフは、教員1名（松村）、4年生1名（大崎）、3年生1名（小郷）であった。開始時刻から終了15分前頃までの約90分間、参加者は途切れることがなく盛況であった。参加者数は100名まではカウントでき、それ以上であることは確かだが、明確な数は出せていない。約90分間に1回2分程度の説明を行ったので、説明の回数は約45回、また1回につき3～4名程度の参加者に聞いていただいたので、参加者総数は約130～180名程度と推定される。

当日の天候： 時折、雲が通過したが、太陽を観察することができた。最近5年（2014～2018年）のうち、昨年（2018年）は天気が良く参加者全員に太陽をみてもらったが、その年以外の天気は悪く、当講座は中止になったり、実施しても太陽を観察できたのは一部の参加者のみだったり、という状況であった。今回は、昨年と同様、参加者全員に太陽を見てもらえた。

太陽活動の状況について： 当日、太陽面に黒点を認めることはできず（写真左）、折角天気が良かったのに残念であった（昨年は微小な黒点が3個観測できた）。これは、ここ数年は、太陽活動が平穏な時期（極小期）であることによる。太陽の黒点数は約11年周期で増減をしていることや、間接的に地球の気候等に影響を与えている可能性もあること等を説明した。

研究交流棟1階に示したクイズ： 以下のクイズを示し、正解を屋上の天体ドームに掲示した。

[クイズ] たいよう にちからを、くわえてちぢめると、いんりょく がつよくなって、ブラックホールになります。

たいようを、どのくらいのおおきさにちぢめれば、ブラックホールになるでしょうか？

[選択肢] (1) 600キロメートル（ここから とうきょう までのきょり） (2) 6キロメートル（ここから やしま くらいのきょり） (3) 60メートル（この たてもの のおおきさ）

正解は(2)であり、太陽の Schwarzschild 半径に相当する。実際、大質量の恒星は一生の最後にブラックホールになりうる。しかし、太陽は質量が足りず、ブラックホールにはならない。



写真（左）投影板に映した太陽面。黒点は無かった。 （右）天体ドームの外の様子。

モーツァルトの音楽会

担当：青山夕夏・亀井美波・音楽領域学生

会場：415 教室

対象：小学校 1～6 年生と保護者

時間：11：45～12：30



音楽研究室ではモーツァルトの生涯と作品を紹介する「モーツァルトの音楽会」を開催した。モーツァルトは最も親しまれているクラシック音楽の作曲家であるだけでなく、その短い生涯は尽きることがないエピソードでちりばめられている。私たちは何より、美しい音楽作品を子どもたちに紹介し、楽しんでもらうことを目的として講座に取り組んだ。

プログラムは、モーツァルトの各年代から著名な作品を選び、演奏可能な多彩な編成にアレンジした。また各作品の解説は、モーツァルトや親しかった人物が、劇の形で物語るスタイルをとった。アイデアを出しあって、作曲した頃のエピソードやモーツァルトの置かれた状況を織り込んで脚本として書き下ろした。

また今回初めて、昼休みに「弁当持ち込み可能」の自由参加型講座としての開講を試みた。宣伝の効果もあって 200 名を超える様々な年代の方にご来場いただいた。



1. 準備の流れ

- 4月 テーマと内容の決定
- 5月 台本作成, 室内楽・合奏練習
- 6・7月 室内楽・合奏練習
- 8・9月 全体練習・衣装準備
チラシ・プログラム, PPT 等作成
- 10月 演出確認, 全体練習
リハーサル・最終確認・本番 (14日)



2. 内容

(1) ♪プログラム♪

- 1. 歌劇『フィガロの結婚』より《序曲》K.492 合奏：教育学部音楽研究室 学生一同
- 2. メヌエット ト長調 K.1(1e) ピアノ：今井亮
- 3. きらきら星変奏曲 K.265 ピアノ：秦直樹
- 4. ピアノ・ソナタ 第11番 第3楽章 K.331 ピアノ：梅原千裕 生野さつき
- 5. 歌劇『フィガロの結婚』より《恋とはどんなものかしら》K.492 歌：大山未々子 ピアノ：長岡佐和
- 6. セレナード第13番ト長調 K.525 《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》
クラリネット：亀井美波 先田圭吾 橋爪希佳 フルート：青山夕夏 サックス：山下裕理 ピアノ：氏原小雪
- 7. 歌劇『魔笛』より《パ・パ・パ》K.620 No.21(10) 歌：大平伊織 宮内知代 ピアノ：東はるか
- 8. 歌劇『魔笛』より《やがて朝を告げるために輝きわたるのは》K.620

クラリネット：亀井美波 先田圭吾 橋爪希佳 フルート：青山夕夏

トランペット：大平伊織 サックス：山下裕理 トロンボーン：坂本美優 ピアノ：原百合子 東はるか

(2) ♪登場人物 / キャスト♪

モーツァルト / 今井亮 現在のオーストリア ザルツブルクで生まれた作曲家。

ナンネル / 千葉裕古 モーツァルトより5歳年上の姉。

レオポルト / 大平伊織 モーツァルトの父。ザルツブルグ宮廷音楽家。

コンスタンツェ / 宮内知代 モーツァルトの妻。

歌劇『フィガロの結婚』 ケルビーノ / 大山未々子 伯爵のお世話係。すぐ女性に恋をしてしまう少年。

歌劇『魔笛』 パパゲーノ / 大平伊織 鳥刺し。捕まえた鳥を夜の女王に渡して、ご褒美で生活している。

パパゲーナ / 宮内知代 突然現れるパパゲーノの恋人。



3. 良かった点と反省点

良かった点

- ・計画 — 4月にはテーマが決定し、早い段階から計画的に練習に取り組めた。
- ・全体練習 — 短時間で効率的に集中して全体練習をすすめた。
- ・演奏 — 演奏を中心としたため、各自が自らの演奏を深める機会となった。
- ・広報活動 — A4を4つ折りにした小さなサイズのチラシを配布し、200名以上の来場者につながった。

反省点

- ・楽曲分析 — 曲目等に関する調査や研究をもっと全員で深められればよかった。
- ・資料作成 — 作成には計画性を持ち、領域内での十分な確認をするよう心掛けたい。
- ・会場案内 — 200人以上の来場者を想定できておらず、今後は会場内での案内などに工夫が必要である。
会場入り口までの明確な動線を示す必要がある。(演奏の都合上、入り口は後方のみだった)
ベビーカーをはじめとして、支援が必要な方への配慮が必要だった。

4. 講座を終えて

今回はこれまでの反省をもとに、集客に力を入れた。幸い、当日は本当に多くのお客様にご来場いただくことができた。音楽領域では何より素晴らしい作品の演奏を聴いていただくことを目指した。そのためには、日々の練習の積み重ねが大切であると改めて実感した。音楽領域には定期演奏会や大学内での演奏会をはじめとして、年間を通してお客様の前で演奏する機会がある。そこで得た経験も集積し、練習の時から、お越しいただく子どもたちや保護者の皆様のことを想定することができれば、さらに「未来からの留学生」での活動が在校生にとって意義深いものになると考える。今年の講座で得た経験や気づきを、これからの学びに生かしたい。



会場の様子



トルコ軍の行進



パ・パ・パ・



魔笛 フィナーレ



カーテンコール

アニマルワールド～見よう！つくろう！楽しもう！～

担当教員：吉川暢子・幼児教育コース



今年は2年生を中心に人形劇と紙コップを使った工作を行いました。ヘンゼルとグレーテルの人形劇では子どもたちも世界観に引き込まれ、とても集中して見てくれました。工作も、思い思いの絵を描き、楽しんでくれた様子でした。

<学生からのコメント>

「ヘンゼルとグレーテル」の人形劇では、出遣いという手法を使うことで人形の感情や表情を補うことを工夫しました。より生き生きとした表現に引き込まれて、劇に熱中している子どもたちの様子はとても素敵でした。

工作では、好きな動物の絵を描いた紙コップを使い、輪ゴムの力で飛んでいく「ぴよんぴよんアニマル」を作りました。絵にこだわる子どもいれば、飛ばし方を研究する子どもいて、それぞれの遊び方で楽しんでくれました。

当日は予想以上に子どもたちが集まってくれました。私たちも初めは緊張していましたが、子どもたちが楽しそうに人形劇を見たり工作をしたりする様子を見て、私たち自身も楽しむことができました。

反省点もありますが、学んだことも多くあるので、これからの活動に活かしていきたいと思っています。



幼児教育コース 2年

加藤 七海 曾根 陽 山崎 花

体験さかさ★ワールド

担当 大久保智生 心理領域学生

今年度の未来からの留学生では心理領域は体験さかさワールドを行った。さかさメガネで反転した世界の中で缶積みやモグラたたきなどの体験を行った。順路を矢印で示し、補助が一人は必ず付くようにして安全性を重視し、さかさの世界を子供に楽しんでもらえるように工夫をした。体験の内容や待ち時間などについて尋ねられることが多かったため、受付で待ち時間や体験の内容が分かるように工夫をするべきであると感じた。子供との関わり方や事前準備や待合室での工夫など自分たちで計画することが多く貴重な経験となった。

(弓削 皓嵩)

子供たちが多く来てくれたのは嬉しかった。さかさメガネを楽しんでくれる子供も多かった。待合室では、黒板に自由に絵が描けるようにしていたのはよかったが、折り紙やペンや紙などをはじめから用意しておくなど工夫をするべきであったと思う。また、受付で待ち時間が何分かを伝えることや整理券の取り扱い方など工夫、改善すべきことがあったと思った。さかさワールドの体験では、小さいお子さんが来てくれたが、メガネをかけるのを怖がって泣いてしまうこともあったので説明などをしっかり行うべきであったと感じた。

(北岡 優衣)

さかさワールドを通じて、子供の目線に立つことの大切さを学んだ。前日準備の際、さかさメガネをつけてみたが、上下左右が逆になる不思議な体験をして少し怖かった。子供が怪我しないように十分な配慮が必要だと思った。当日、子供たちは進んでメガネをつけ、楽しんできた。ちゃんと自分の目で見てゲームを楽しんでいる子、早い記録を出そうとしている子などが見られた。私は誘導を行ったが、子供の年齢に合わせて支援の仕方を工夫することができた。100人を超える子どもたちが来てくれ、待合室もいっぱいになったが、なぞなぞ、折り紙、黒板への落書きなどで楽しんでもらえた。また、保護者の方にこんな風に見えていますよ、とさかさメガネを渡すことで子供の気持ちがわかり、ゴール後の反応が良かったと思う。未来からの留学生は普段かかわることのできない子供たちと交流することができるため、とても自分のためになった。(山本 涼香)



「めざせボール運動の達人!!」

担当学生：松本梨璃音ほか保健体育領域学生

教員：上野耕平

本活動では、松本リーダー、小山・濱野サブリーダーによる指揮のもと、2回生12名が4つのグループに分かれて、各グループ6名の小学生(2年生から5年生の男女21名)を指導した。活動の目的は小学生に「ボール運動のコツ」を見つけさせることであった。

本活動で実践した「コロコロボール」は小学校の先生たちが考案したボール運動の基本教材である。相手のゴールにシュートすることを目指す、ボールを持っている時は移動できない。そこでパスが重要となるが、パスは必ず転がさなければならないルールになっている。相手のボールをカットできるのも、パスの間だけである。パスを平面上に限定することにより、ボールの受け渡しが容易になると共に、「相手の間(スペース)」が分かりやすく、戦術の学習が容易になる教材となっている。今回はボール運動のコツを学びやすいよう、攻撃側の人数を3人、守備側の人数を2人として実施した。

学生は事前にコロコロボールの特性を学んだ上で、各自のグループで指導を行った。各グループの小学生は学年・性別共にバラバラになるよう分けられていたことから、指導に際しては個々の児童に応じた工夫が求められた。実践後の学生の感想には「最初はなかなか打ち解けられず困ってしまった」、「色々と出てくる意見をまとめることができなかった」など指導の難しさに対する訴えが多く認められた。ボール運動のコツとして「フェイントを入れてからパスをする」、「相手のいないところに動く」ことを教える必要があったが、実際にそうすることで試合に勝てると子供が感じなければ、試合で実行するまでには至らない。実際に指導するなかで教えることの難しさを学んだようである。他方、「運動を始めればどんどん話しかけてくれるようになった」、「コツが分かったと言ってくれて嬉しくなった」など、子どもの理解に繋がったことを示す感想や、子供と触れあう楽しさを感じた感想も認められた。

本イベントは学外の方々に教育学部について知って頂く機会となるだけでなく、学生が教職という将来の進路を選択する上で、多くの情報を得られる機会になると考えられた。



「氷でアート」

担当学生：入屋碧・大久保愛・佐藤真由子ほか生活総合領域学生

内 容：色水を凍らした氷でお絵かきをしてみよう

準備物：色水の氷（食紅を使用）、ラップ、画用紙、色紙、塗り絵用にあらかじめ印刷しておいた用紙、新聞紙、クレヨン、ペン、ビニール手袋、マスキングテープ

＜当日の流れ＞

1. 子どもたちに、この講座の説明や注意すべきことを伝える
2. 自由にお絵かきを楽しんでもらう
3. 終了の10～15分前に声をかけて、キリがいいところまで仕上げてもらう
4. 子どもたちが描いた絵を持って帰ってもらうために、画用紙を台紙にして絵を貼る



＜当日の様子＞

講座には幅広い年齢の子どもたちが参加してくれた。基本的に子どもたちに自由に、氷でのお絵かきを楽しんでもらった。自分で絵を描いている子もいれば、あらかじめ用意していた塗り絵を使用している子もおり、様々であった。また、クレヨンやポスカを使用してキャラクターの絵を仕上げている子どももいた。

想像以上に、子どもたちがたくさんの絵を描いて楽しんでくれた。

氷が溶けるスピードが思っていたよりも早く、最後のほうは色水をティッシュでつけたものでお絵かきをしてもらったが、子どもたちは楽しそうに活動していた。



和紙で手作りランプをつくろう！

担当：古草 敦史・美術領域学生

会場：2号館3階 教材研究開発室

対象：小学校1～6年生と保護者

時間：第一部 9：30～11：20 第二部 13：00～14：50



〈事前準備について〉

当日の見本として使うために、学生たちでランプの試作品を作りました。

また、当日に必要なクリアファイルの片面は、切断するのにカッターを要する作業のため、事前に学生たちで切断しました。

リハーサルを行い、当日の黒板のレイアウトや子どもたちへの説明の内容を決めていきました。その際、上級生の方に見ていただき、黒板の文字を書く位置についての注意点や作業で生じたゴミを捨てるために各テーブルにゴミ箱を用意した方がよいなど、アドバイスをいただけたことで、改善していくことができました。前日の準備期間に教室の準備を済ませました。



〈当日について〉

和紙の上に、折り紙などをちぎって貼る、ちぎり絵を行いました。ちぎる以外に、ハサミを使用する子どもがいることも想定していたため、作業に取りかかる前の最初の説明の際に、ハサミの使用についての注意するように伝えました。

内容が簡単なため、早く作品が完成する子どももいると想定していたため、そうした子どもたちには、二つ目の作品を作ってもらえるようにするか、作品を持ち帰る用の紙袋にポスカなどを使って絵を描いてもらえるようにしていました。そのため、丁度良い時間に作業を終えることができ、午前の部、午後の部ともに、10分～20分前には講座を終了しました。



事前申し込み者の何人かは不参加でしたが、その分用意していた席に空きができ、保護者と隣同士に座ることができる子どもたちも居り、大人も子どもも一緒に作業を楽しむことができていました。

見本を黒板に貼って掲示していましたが、見本を参考にして作品を作る子どもがいたり、見本とは全く違うオリジナルの作品を作る子どもがいたり、様々な作品が作られていました。

最後に、部屋の中を暗くし、完成した作品を一斉にライトアップしました。予想していたよりもランプが一斉に灯されている光景はきれいで、感嘆の声も聞こえたので、参加者にこの講座を楽しんでもらえたのではないかなと感じられた瞬間でした。



未来からの留学生報告書

講座名 ものしり理科ハカセになろう！・事前申し込み型

担当者 松本 一範・理科領域学生

今年の事前申し込み型では、「光の秘密について知ろう！」と「目に見えない空気の謎に迫ろう！」の二つのテーマで授業を行いました。どちらの授業も子供たちの「なんで?!」を学びにつなげることができました。

【光の秘密について知ろう！】

この授業ブースでは、普段よく目にしている光には実は様々な性質があるということをいろいろな実験を通して学んでもらうということが目的でした。LED ライトを用いた3色混合器や分光シート・偏光板など普段学校の授業では使わない器具を用いたため、子供たちは興味津々で授業に参加してくれました。特に3色混合器では赤・青・緑の3色をどのように組み合わせると新しい色が見つかるのか、3色を混ぜるとどんな色になるのかを考えてもらいながら実験を行ってもらいました。元気よく手を挙げて発表してくれる子や、よく話を聞いて実験を行ってくれる子をたくさん見ることができ理科に少しでも興味を持つきっかけになったのではないかと思います。



【目に見えない空気の謎に迫ろう！】

この授業ブースでは、当たり前のように存在している空気に着目し謎解き感覚で空気の性質を学んでもらうということが目的でした。普段の生活の中で目にするものを使って簡単な実験を子どもたちに体を動かしてもらいながら行ってもらいました。実際に体を動かしながら行ってもらったため積極的に実験に参加してくれていました。空気の性質を一つ一つ実験を通して学んでもらい、学んだことを利用して作った空気鉄砲は子どもたちに大好評でした。発展的内容として扱った真空管（減圧）では授業で学んだことを応用して答えを導くことのできた子がいました。身近な道具を使って楽しく・わかりやすく・学べる、授業ができたのではないかと思います。



総評

どちらの授業も身近にあるものをテーマに用いたことで、子どもたちに理科の「なぜ」「どうして」は生活の中でたくさんあるということを伝えられたのではないかと思います。初めての授業であったのでどうすれば子どもたちに伝わるか・楽しく学んでもらえるか何度も試行錯誤しました。今回得られた経験を教育実習で生かしていきたいと思います。(文責 伊澤亮太)

おもしろ算数・数学教室：図形の変身！

■担当者：松島充先生

板谷聡一郎 三代涼貴 藤田仁弥 香川陽太 吉松果菜子

■活動内容

本講座は、今年度も午前・午後の2回、各2時間続きで実施し、等積変形を講義で扱った。等積変形とは、三角形を四角形に変えたりするように、元の図形と異なる形の図形に変化させることである。

導入部分では、図形を重ねたり切ったりすることで、図形の形を変えられることを、実際に二等辺三角形と正方形の図形を使って伝えた。この「重ねる」「切る」という比較方法を用いて、実際に画用紙で用意された図形を自由に切って、さまざまな問題を次々に解いていった。だんだんと難しくなる問題に苦戦する子どももいたが、それに備えて教室の後方には、すでに切断された同じ図形のパネルを置き、切り方やパーツの動かし方の参考にした。

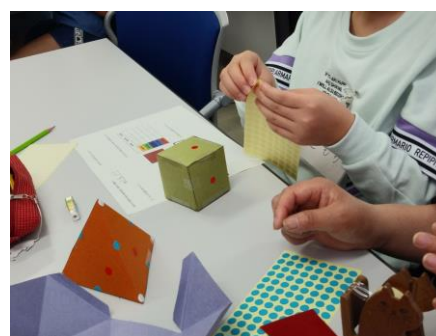
今年の講義で工夫したところは、黒板に授業時間や休み時間を書いたこと、紙くずを捨てやすいように机の上にゴミ箱を置いたこと、図形の画用紙と後ろのパネルに問題の番号を添えたことだ。子どものためにとった工夫だったが、大学生にとっても役立ったので、ぜひ来年もしていただけたらと思う。

夢中になって問題に取り組み、大学生では思いもよらないような形に切って、楽しんで図形を変身させていた子ども達の姿を見られたことは、私たちにとって喜びであり、貴重な経験となった。未来からの留学生に参加し、素敵な思い出を作らせていただいたことを、この場をお借りし、お礼申し上げます。



未来からの留学生報告書
「図形の不思議さ」 数学領域 香西真莉子

- ・日時 : 令和元年 10 月 13 日 (日)
- ・担当教員 : 内藤先生 四ツ谷先生
- ・学生 : 香西・久野・多田・高山・小田原
- ・内容 : 事前申し込み型の講座で、午前と午後の 2 回開催した。各時間子どもたちを 10 名程度招いた。授業としては、最初の 10 分程度で図形の説明をし、次に 5 つの正多面体を組み立てさせ、各自で面・頂点・辺の数を数えさせた。最後に面・頂点・辺の数の答え合わせをして、オイラーの多面体定理(面の数+頂点の数-辺の数=2)の説明を子どもに分かるように説明して、みんな図形の不思議を見つけた。



〈 感想 〉

授業前は、参加する子どもたちの学年が、幼稚園から小学 5 年生までという幅広い年齢であり、オイラーの多面体定理を説明する中で足し算と引き算は欠かせないので、子どもたちが理解してくれるかという不安があった。しかし、パワーポイントを使い、みんなで数えると、足し算と引き算が出来ない年齢の子でも理解してくれていた。どのようにしたら子どもたちに分かりやすく伝えることが出来るかを考え、子どもたちにうまく伝わったときはとてもうれしかった。未来留での経験も生かして来年の教育実習に臨みたいと思った。

英語領域：『シンデレラ』

担当：ポール・バテン教員担当

学生代表：広畑早耶、鎌田隼輔；英語領域学生

教員からのコメント A very nice time for young children to experience and enjoy English

今年は小学校低学年の児童のための英語演劇を実施しました。外国・英語への関心を持ってもらうため、おなじみの「シンデレラ」の英語劇を小学の児童に紹介しました。歌、ゲームと劇を通して英語にふれたときの子どもの笑顔がとても印象的でした。英語研究室の学生のみなさん、特に新2年生が一生懸命準備をした結果、とても良い雰囲気で行うことができました。参加した小学生は20人ぐらいで、大学生の先輩を見て英語でコミュニケーションを図ることを楽しんでくれました。また、教員をめざしている英語領域の学生にとっても良い支え・励ましとなりました。

(英語領域担当 ポール・バテン教員)



“You can't go to the dance!”

The Prince proposes to Cinderella.

Smiles after the play

学生からのコメント

子どもたちを楽しませる工夫

英語領域では、まず子どもたちの緊張をほぐすために英語でのじゃんけん列車をとりいれ、そのあと劇に出てくる重要な単語を紹介したあと、劇『シンデレラ』に入りました。劇や配役についてそれぞれが子どもを劇に惹きつけるアイデアを出し、当日は多くの子どもたちの笑顔を見ることができました。特に効果的だったものは、劇中にシンデレラのドレスを魔法で出すために魔女と一緒にステッキを使いダンスをするシーンです。このとき使うステッキは学生で手作りし当日の思い出にとプレゼントしました。また、シンデレラ、プリンスの素晴らしい衣装を見て、子どもたちの印象に強く残ったと思います。準備段階から本番当日まで教授、先輩の多くのお力添えがあり、私たちの劇は成功しました。来年度以降は自分たちもそうしたいです。

(英語領域2年生 広畑早耶)

子ども達が参加しやすい環境作りも大切に

今回の劇を行う上でのキーポイントとしては、子ども達にも英語を活用する機会を設け、かつ子ども達とコミュニケーションを取るということでした。英語劇を行う場合必ずしも知っている単語が出てくるわけではないため劇の導入に単語説明をしたりしました。また、劇中で子ども達に問いかける部分などを取り入れることで子ども達が劇に参加しやすい環境作りも大切にしました。その結果、子ども達の劇への反応はとても良かったと感じました。今回の英語劇を通して、より良い英語劇を作れた達成感と共に子ども達の英語に対する関心引き立てる役に立つことができたと思えました。とても素晴らしい作品を作ることができたと思うのでとても貴重な経験でした。

(英語領域2年生 鎌田隼輔)

「講座名」「大豆博士になろう」

担当学生：藤田瑠緒、川上菜摘、大平蘭菜の家庭領域学生

担当教員：畦五月

家庭領域は「大豆博士になろう」というテーマのもとに、小学校5年生と6年生を対象として家庭領域の2年生3名が中心になり進行していきました。

まず、大豆を原料にして作られている製品について皆で考えた後に、その利用法の一つとして豆乳があることに触れ、実際に大豆から豆乳作るまでの流れを、実物を前にして確かめました。子どもたちは、興味深そうに触っていました。さらに、この温めた豆乳の中に「魔法の水」である「にがり」を加えて、手早くかき混ぜると、ドロドロと変化して徐々に固まっていく様子を2人1組



となり体験しました。作成した豆腐は、にがりを抜く時間がなかったため、固めるところまでしかいきませんでした。思ったより短時間で豆腐ができることに驚いていました。

最後に、大豆製品には、大豆を発酵する操作で作られる醤油、味噌、納豆があることや、肉が食べられない人のために、大豆から作った新しい形の豆乳バターや豆乳チーズがあることも、実物を前に学習しました。大豆について学んだ子どもたちは、大豆博士の認定証をもらって、会を終了しました。

予定していた時間配分より早く進行してしまい、子供理解がもっと必要であると感じました。しかし、子供たちの学びたい、知りたいというキラキラした目を見て、とても素晴らしい経験をさせて頂いたと感じました。(文責：大平沙音)



3人が中心になり実施しましたが、進行表の立案に始まり、備品・材料準備や実際の豆腐作りの実験など、人数が少ないなりに協力して活動に取り組むことができたと思います。学生主体の活動ということで、上手くいかない部分も多々ありましたが、自分の考えをアウトプットできる良い機会になりました。(文責：川上菜摘)

授業をする中で、子どもの反応をいくつか予測すること、それに自分自身が対応することの重要性を実感しました。今回の経験をこれからの大学生活に活かし、新しい発見・学びに繋げたいと思います。(文責：藤田瑠緒)

「わくわくけんぽう入門」

担当学生：今野翔太ほか社会科領域学生

担当教員：高倉良一

1. 目的

私たちは「未就学児から小学生までを特に対象として日本国憲法をわかりやすく伝えること」「高校生と一緒に来ていただいている保護者の方々にとっても学びになる材料を与えること」「家庭内での憲法に関する対話を生むこと」の3点を目的として未来からの留学生の活動を行った。

2. 内容構成

① 導入(スライドショー)

始めにスライドショーを用いて「憲法とは何か」ということについて伝えた。

② 紙芝居

サザエさんをモチーフに日本国憲法の三原則について説明した。

③ クイズ

基本的人権の尊重の内容に関するクイズを3問行った。

④ 劇

紙芝居と同じくサザエさんをモチーフとして2本行った。1本目は肖像権、2本目は国家賠償請求権についての劇を行った。

⑤ まとめ(スライドショー)

スライドショーを用いて憲法が私たちの生活にどのように関わっているのか、またどのように私たちの生活を守ってくれているのかについてまとめた。

3. 感想

私たちは憲法を教えるという非常に難しい内容をやる上で「内容のレベルを落とさずわかりやすく伝える」ことを目標に活動を行った。サザエさんの居間を教室に再現することによって子どもたちがサザエさんの世界観に入ることができ、理解の手助けになったのではないかと思う。また、保護者の方々にも内容についての補足が書いてある小さな冊子を渡したことで保護者の方々の学びにもつながったのではないかと思う。

教師を目指うえで子どもの反応を間近で見ることができたり子供に何かを伝えたりすることのできたいい機会になったのではないかと思った。今回の未来からの留学生で生まれた改善点や上手くいった点をこれからの活動に生かしていきたい。



「おんどくリンピック2019」

担当：大熊裕樹（教員）

川田麻里亜・山口華歩・稲田翔子・

津山未佳・水早里菜（以上3年生5名）

1年生有志（6名）

本講座は、以前から行われていた「音読」に関する講座で、簡単なゲームや活動、発表会を通して音読の楽しさに気づけることを目標に開講しました。開会式、音読の準備体操、音読ゲーム、工夫見つけ、練習、発表会、金メダル授与、閉会式といったオリンピックを意識した流れにすることで子供たちが意欲的に取り組むことができるように工夫しました。大熊先生をはじめとし研究室の仲間の多くの協力のもと運営を進め、当日は大学1年生のボランティアスタッフも加わりスムーズな流れで進行し、たくさん子どもたちや保護者の笑顔も見ることができ大盛り上がりの中、無事に終わることができました。

「おんどくで自分たちができる工夫って何だろう」

この講座では、「あめ」など、2つの文字のイントネーションの違いに着目して読み方の違いを考えたり、同じ内容の言葉を感情によって読み分けたりする簡単なゲームを通して、同じ言葉でも読み方によって伝わり方が違ってくるということに気づけるようにしました。次に大学生スタッフ2人が行った音読から、自分の感情を



伝えるためにどのように読むことが大切かを考えたうえで、自分たちの発表会ではどんな工夫ができるか考えるといった流れにし、子どもたちが発表会に向けて自ら意欲を持って取り組めるように工夫しました。発表会の後、一人一人に金メダルを首にかけてあげるとすごくうれしそうな表情が見られました。万国旗や輪飾り、発表台等の教室の雰囲気作りにも力を入れました。

おんどくリンピックを通して

今回参加してくれていた小学生以下のとても小さな子どもがきょうだいと一緒に一生懸命音読に取り組む姿勢を見てすごくうれしい気持ちになりました。本講座を通して児童の真剣に取り組む姿や成長を間近で見ることができ、とても貴重な経験になりました。また、児童とのかかわり方など今回学んだことを今後の活動に生かしていきたいと思います。

（文責：教育領域3年 川田麻里亜）



おはなしの国 2019 総括

担当:櫻井佳樹 武一期 教育領域 2年

○はじめに

今年度の「未来からの留学生」において教育領域2年生は、例年実施している「おはなしの国」を行うことにした。対象を幼児～小学校低学年とし、「レクリエーションゲーム」「歌・ダンス」「劇」の3部構成にし、2時間目(10:35～11:20)と3時間目(13:00～13:45)の合計2回の公演を行った。

レクリエーションゲームでは「落ちた落ちたゲーム」、歌・ダンスでは『パプリカ』(foorin)、劇には『かさこじぞう』(日本昔ばなし)を教材として取り上げアレンジを加えて行った。

また、このワークショップ全体のテーマは低学年の子どもたちに伝えやすいように、「見返りを求めない優しさ」とした。



○準備の流れ

- 7月 テーマ決定、台本作り、練習日程決め
- 8月 台本完成、配役など決定、小道具・大道具作成
- 9月 劇・踊りの練習、道具と修正
- 10月 最終確認、会場準備、本番(13日)

○当日の流れ

- 8:00 集合、最終リハーサル、最終打ち合わせ
- 10:35 本番1回目
 - 〈レクリエーションゲーム〉
 - 〈踊り・ダンス〉『パプリカ』
 - 〈劇〉『かさこじぞう』
- 11:20 昼休憩、1回目の反省、修正
- 13:00 本番2回目
 - 〈同上〉
- 13:50 後片付け



○評価できる点・改善すべき点

	評価できる点	改善すべき点
準備段階	<ul style="list-style-type: none"> ・早いうちからシフトを組み、計画的に進められた点。(道具、役者練習など) ・子ども目線で意見を出しながら進められた点。 ・全体のことを把握している人が常にいたこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を検証する時間を十分に取れなかった点 ・教室内の飾り付けが直前になってしまった点 ・シフトが合わずあまり準備に参加することができない人をつくってしまった点。
上演中	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの反応が良く、自分たちも楽しめた点。 ・待ち時間も声掛けをし、子どもたちを楽しませることができた点。 ・レクでしっかり子どもの心をつかみ、劇に持っていった点。 ・音響や照明、劇の出入りなどの動きがリハーサル通りに進められた点。 ・背景をスライドにしたことで場面転換がスムーズに行えた点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから意見が出ないという予想外の事態を想定できていなかった点。 ・靴置き場や保護者席をどの配置にするかを子ども目線で考えきれていなかった点。 ・参加者が少なかった点。(呼び込みをするべきであった)

○まとめ

今回の「おはなしの国2019」では、子どもたちをいかに楽しませ、私たちが伝えたいメッセージをどう伝えるかを考えながら取り組むことができたと思う。子どもたちに考えてもらう場を設けたり、笑える場面を作ったりするなどの多くの工夫を凝らしながら実践することができた。全員が子どもたちの視点で物事を考えるようになったことで多くの意見が出るようになり、日ごとに良いものへと作り上げていくことができたのではないかと思う。しかし想定しきれず、想定外のことが起きた時への対応力をつけていく必要があるなど教育現場に出て必要になってくる課題も見つかった。

今後はこの未来からの留学生で得た多くの学びを活かしながら研究室の仲間とより切磋琢磨してお互いを高めていきたい。

未来からの留学生報告書

「折り紙マンとゆかいな紙々」 代表 数学領域 大山和起 (18L129)

- ・日時 : 令和元年 10 月 13 日 (日)
- ・担当教員: 高野先生
- ・学生 : 大川・大山・名越・山本
- ・内容 : 事前申し込みで、子どもたちを各 10 名程度招き、1 時間、計 2 講座を開いた。あらかじめ折り紙に、星やハートなど様々な図形の線を入れておき、それらをうまく折ることで、ひと裁ちでその図形を切り抜くことを目標とする。形によって難易度分けを行い、初級 (星、ハート、4)、中級 (A、0、とんび)、上級 (もみの木、クラブ、スペード) の 3 つに分けて折り紙マンからの挑戦状とした。講座の最後に折り紙マンが参加者全員にひと裁ち切りマスターを賞する賞状を与える。
- ・感想 : 初級の 3 つの形に関しては子どもたちはかなりスムーズにひと裁ち折りをクリアしていた。一方で中級、上級となってくるとなかなかクリアできない子どもが増えてきた。その場合は我々ができるだけ個別に対応することで、それなりにクリアにたどり着けているようであった。しかし、中級のとんびと上級の 3 つの形は練習をしていた我々でも難しかったため、対応に困ってしまった。ひと裁ち折りをクリアすると、クリアするたびに折り紙マンに報告している子どももいた。以外にも親たちも楽しんでいたようで子どもと一緒に悩みながらひと裁ち折りをしていた。

子どもたちの間ではとんびが人気でほとんどの子どもが最終的にはとんびのひと裁ち折りをしていた。先ほど述べたようにとんびは教えることが難しく、羽が途中で切れてしまったり、くちばしがうまくできないことが多々あった。そのため、教えることの難しさを少しだけ体験できた気がした。

また、賞状をもらったときの子どもたちの笑顔や喜んでいる姿がとても印象的で、こちらもうれしい気持ちになれた。子どもたちの純粹さに触れることが出来、とても充実した 1 日だった。



「バルーンアートの世界へようこそ」

代表者 特別支援研究室 近藤 堪太

まず、準備については、黒板に絵を描いたり飾り付けをしたりして楽しい雰囲気づくりを心がけた。当日は約二十名、小学1年生から6年生まで来るということだったため、それぞれの学年、また、器用さ不器用さなどに配慮して、難易度ごとにレベルを3つほど用意した。そして、一人一人に詳しく教えられるように、学生もレベルごとに配置した。

当日は、子供が1人欠席したものの、ほぼ全員が参加してくれた。そして、元々はオープニングのようなものを軽くしようと考えていた。しかし、子供たちの来る時間がバラバラであったため、子供が来るタイミングでそれぞれはじめるという形を取った。また、想定外だったのが、子供たちは作るレベルに関係なく作りたいものを選ぶため、グループによってはとても人数が多くなってしまったため、バタバタしてしまった。

子供たちの反応は、風船が割れそうで怖がってビクビクしていた。しかし、完成するにつれて、だんだんと興奮した様子になり、完成した時にはとても嬉しそうであった。私たちは、バルーンアートを教える中で、そういった喜びをより感じてもらうために、出来るだけ子供達の手で作れるように配慮した。子供たちも、すぐ飽きるかと思ったが結構次々に時間いっぱい楽しんでくれた。

全体的にみると、バタバタしていた部分もあったが、滞りなく教室を進めることができた。子供たちの反応を見ながら対応できたのが良かった点であったと考える。

